



1 学生と企業の多彩な交流



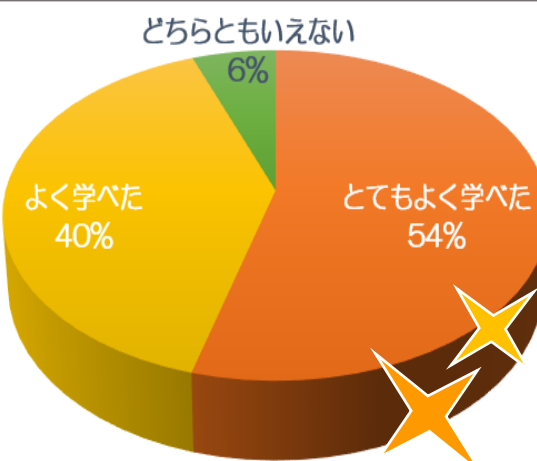
リアル&メタバース



1学生代表であいさつする小橋未来さん



Q1 地域で活躍する企業の取り組みを学ぶことができましたか? : 学生

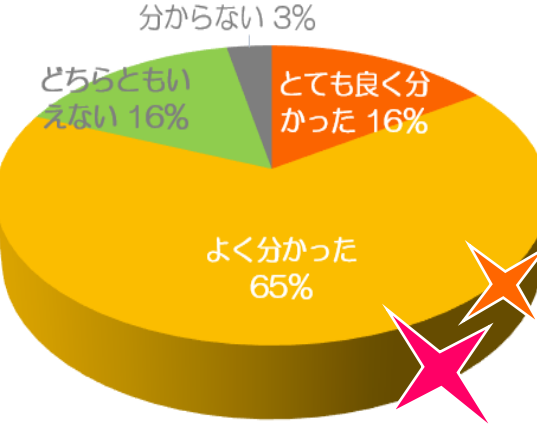


学生と企業との交流会である『2022 リアル&メタバースでIT人材育成』が12月5日(月)に開催され、県内のDX企業20社と本校の学生と地域高校生約100人が集まりました。開会式は、外山和夫氏(茨城県職業能力開発推進協議会副会長)、榊原利至氏(茨城県産業戦略部長)からごあいさつを頂きました。

交流会では、各企業ブースに学生が集まり、事業の説明や質疑応答が行われました。企業からは「学生と直接交流できて良かった」「密防止に、メタバースの利用は良い」。学生からは「DXについて意識が高まった」「多くの企業から話を聞いた」との声がありました。課題としては、「毎回の企業説明の時間が短い」「メタバースの利点が活かしきれていない」等の声がありました。アンケートでは、9割の学生が「よく学べた」との回答もありました。イベントのコンセプトは、8割の企業から「良かった」との声を頂きました。

学生代表であいさつした小橋未来さん(鉾田一高卒)は、「私たち学生のために、参加頂いた企業の皆様に感謝しています」と話していました。

Q2 「リアル&メタバースによるIT人材育成」のコンセプトについて: 企業



全大会の様子

2 みんなの母校訪問!

県立佐和高等学校



山崎浩之 校長

自然に恵まれ、開放感にあふれる校舎群がとても印象的な学校です。昭和60年に開校し、今年で創立38年を迎える伝統校です。「君の心に聴け」を校訓としています。山崎浩之校長からは、IT短大に進学した卒業生の活躍を讃えていました。また、「ITリーダーを目指そう!」とエールを頂きました。

★ 参加した学生の声

- 五味千怜さん(麻生高卒) 企業の交流会をきっかけに、自分はどのような企業が合っているのかを気づくことができました。お話を聞くことによって企業それぞれの特色を知ることができ、すごく良い機会となりました。
- 鶴巻陽太さん(中央高卒) メタバースを使用することによって、実際にその場に行かなくても参加することができるのがとても良いと感じた。様々な企業のお話を聞くことができ、とてもいい体験になりました。社会に出た時のイメージがつかめました。
- 谷田部康一郎さん(石岡一高卒) 実際に会場で対面だけでなく、インターネット上の仮想空間『メタバース』を活用することで、コロナの対策はもちろんのこと、IT技術に身近に触れることができ素晴らしいと思った。
- 山田愛璃さん(土浦三高卒) 今回、初めて企業の方々と対面して交流する機会が、ホームページでは伝わりにくい企業の雰囲気や、具体的な業務内容など詳細を知ることができ、貴重な体験ができたと感じた。